

私の視点

ゆっくり効く治療も、いいじゃないか。

青山 裕美(川崎医科大学皮膚科教授)

アミロイド苔癬(lichen amyloidosis)は、原発性皮膚アミロイドーシスに分類される疾患で、非常に痒みの強い米粒大の角化を伴う丘疹が、毛包を避けて規則的に並ぶのが特徴である。乾燥しやすい下腿や腕に好発する。アトピー性皮膚炎に続発することもしばしば経験する。ステロイド外用剤に抵抗性で、治療に難渋することが多い。沈着したアミロイドを除去する



図1 75歳男性。ステロイド外用に抵抗性のアミロイド苔癬



図2 高分子ヘパリノイド外用療法で平坦化した病変

目的で外科的な治療が行われることすらある。実は筆者らは、アミロイド苔癬が発汗障害を伴っていることを証明し、発汗誘導作用のある高分子ヘパリノイドの密封療法で丘疹が消失し中心部に汗腺機能が復活することを見出し報告しているが、この治療法は意外に知られていない¹⁾。

写真に、症例の治癒過程を示す。2015年に治療を開始し(図1)、2019年現在の状態である(図2)。不思議なことに、外用治療が効き始めると1~2カ月で部分的に丘疹が平坦化するのである。現在も臀部や大腿といったラップを巻きにくいところに皮疹が残っており、残った丘疹を治療するためにずっと通院されているのである。生物学的製剤が登場したこの時代に、月単位、年単位で治療するなど時代遅れな治療方法かもしれないと思いながらも、ぼちぼち継続している。

乾癬の患者さんは、生物学的製剤を使用開始後、6週間経過したころから皮疹が軽快しないと、治療効果に疑問を感じ始めるといわれているが、最近医師も同様に結果を急ぎすぎる傾向に陥っているかもしれない。超高速の過剰消費の時代の中で、逆にゆっくりとしたときの流れを大切にして、自分の気持ちに合うシンプルな生き方に関心が高まっているのも事実である。ゆっくりと効く治療でも、こんなに長く効くならいいじゃないかとしみじみ古い写真を眺めるのも、皮膚科医の楽しみの1つである。

<文 献>

1) Shimoda Y, et al : Br J Dermatol 176 : 1308, 2017